

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	Argachew Boचना Elisi
論文題目	Rural Road Accessibility and the Change of Enset Agriculture in Aari Zone of Ethiopia (地域道路の普及とエンセーテ農業の変容 —エチオピア、アリ県を事例として—)		
(論文内容の要旨)			
<p>農村地域開発において、コミュニティの道路アクセスは農業変革の必要条件であると広く考えられてきた。エチオピアをはじめアフリカ各地で行われた先行研究では、道路建設の目的は複雑で、地域開発を目指してはいてもその背後に政治的な動機が潜んでいたり、地域の生態、歴史、社会的な状況に応じて、社会経済的変化とその影響は異なるなど、道路と農業生産の関係はそれほど単純なものではないことがわかっている。例えばエチオピアの地域道路普及プログラム (URRAP) は、農村コミュニティを季節に関わりなく通行できる道路に接続することをめざして、国内の道路網の整備率を向上させたが、地方における農産物の輸送を大きく改善するには至らなかったことが指摘されている。</p> <p>本論文は、地域道路へのアクセス、エチオピア在来作物エンセーテの生産と住民が実践する在来知識の現状との関係をあきらかにしたうえで、道路アクセスが改善された場合に他の作物とともにエンセーテ生産を増やす方策を考察することを目的としている。調査は、エチオピアのアリ県南アリ郡の3つの村で、乾季と雨季の2つの時期 (2022年6月～8月、2022年11月～2023年1月) に実施され、107人のインフォーマントに対して、半構造化インタビューおよび日常活動や市場取引の直接観察を行っている。</p> <p>第2章では、開発途上国、特にエチオピアにおける道路と農業の接点に関する先行研究を検証するとともに、道路アクセスの状況におけるエンセーテ生産の現状とその知識の動態について考察している。先行研究では、おもに換金作物が栽培される地域と市場を結ぶために建設される道路に焦点があてられてきており、エンセーテ農業は等閑視されてきた。</p> <p>第3章では、道路へのアクセスとエンセーテ栽培の相互作用の特徴を明らかにするために、道路へのアクセスがある村とない村におけるエンセーテの生産と流通の変化を論じている。調査地域では、道路アクセス状況が市場との結びつきに直接的に反映されていないこと、病虫害の蔓延や社会的慣習の変化も、道路にアクセスできるかどうかによらずエンセーテの生産と流通が直面する主要な要素であることを指摘した。乾季のデータと比較して、雨季には、道路にアクセスできる世帯とできない世帯の間では、市場までの移動時間、発酵させたエンセーテのでんぷんの価格や入手可能な量に</p>			

差を見出している。道路アクセスの有無によらず、社会的・文化的領域における世帯の日常活動は、エンセーテ農業と密接に絡み合っており、エンセーテが他の換金作物と共存することを可能にしていることを論じた。

第4章では、45人の世帯主とその子ども62人を対象として体系的な調査データの収集をおこない、道路へのアクセスと結びつけて世帯レベルのエンセーテの知識と栽培の状況の変化について分析した。エンセーテの苗づくりは、かつてはモッラ (*molla*) と呼ばれる労働集団によって共同で実施されてきたが、現在は世帯単位で個別に行われていることを見出した。他方、シルカ (*shirka*) とよばれる、エンセーテの苗の準備と植え付けに取り組む伝統的な慣習は衰退しつつあることも明らかにした。エンセーテに関する在来知識と年齢との間には正の相関があるが、性別とは有意な相関がなかった。幹線道路から各世帯の家までの距離と、エンセーテ栽培面積や在来品種の数との間には正の相関があることを見出した。聞き取り調査によれば、かつてはエンセーテを材料に使った料理の種類が多くあったが、最近では根茎 (*amicho*) と発酵でんぷん (*kocho*) が、この地域における一般的な料理の素材の一つであった。発酵を短時間で促進させるために加工したエンセーテの根茎部分を加えると、味がよく発酵時間も短くなるため、市場でも家庭でも好まれていたこともあきらかにした。この新たな発酵法は、道路アクセスのよい村でもそうでない村でも広まっていることを指摘した。

第5章では、本研究が対象とした農村コミュニティにおいて、道路交通の利便性とエンセーテに対する需要の関係が、世帯が市場に向けてより多くのエンセーテを生産する上で必ずしも重要な決定要因ではないことを指摘した。その理由の一つとして、現状では道路アクセスが改善されたとしても輸送と販売にかかる費用が高いことや、地域の自給作物としてのエンセーテの重要性が高いことをあげている。作物生産は、農村の道路アクセスの利便性によってのみ左右されるのではなく、新旧の作物が自給生産において共存し、互いに影響し合っている現状では、対象とした農村コミュニティにおいてエンセーテと新たに導入された作物の両方の生産が営まれていることが重要であることを論じた。